



## 今年もよろしくお祈いします。

若穂地区住民自治協議会理事会・事務局職員一同

多くの皆さまが、さまざまな団体が若穂のコミュニティを支えています。そのコーディネート役を担うのが住民自治協議会。「縮小社会」を迎える中で若穂の未来を、元気を創ります。1月16日には、福祉保健委員会(玉川礼子委員長)による講演会『結婚させるのは親の役目』(講師:若井順子さん)が開催されます。皆さまどうぞご参加を! (P1:30~・若穂支所2F)

## 新しい息吹の鼓動

住民自治協議会会長 綿内剛美

新年明けましておめでとうございます。

旧年中のご支援・ご協力に厚く御礼申し上げますとともに、本年も宜しくお祈い致します。

昨年一年間、若穂の大きな課題として取り組んできました、①「保科温泉線バス存続対策」②「若穂まちづくり計画の策定」③「自治協組織の見直し」ですが、お蔭様をもちまして三課題とも見通し良い展望を持った具体策となってきております。しかし①については、「利用者の増加」、②では「三地区未来会議の活性化と調整」、③においては「代表区長のあり方」がまだ途上であり、4月実施に向け住民皆様の知恵の出どころと心得ています。

さて、本年は若穂にとって「新しい息吹の鼓動が確かに聞こえる年」になるのではと感じています。それは我々住民にとって長年の願いであった幾つかの案件が、かなりの実現性を持った動きとなっているからです。その一つが川田地区へのスマートインター設置、そして若穂地区千曲川右岸の完成堤防化。これらはすでに市・県・国への要請も済まし今年度からの着工も期待されます。また、国道403号線の安全対策、千曲川新道(屋代線鉄路跡地)の新設も進展しており、これらを落合橋・関崎橋の渋滞解消対策、道の駅や2本目の幹線道路(緊急避難道路)の建設などと総合的に関連付けながら実現を目指したいと思ひます。皆様のご理解、ご協力を宜しくお祈い致します。

先日ある小誌を読んでいたら、「若穂に来て数十年、豊かな自然と人情の中で子育てができたこと、本当に幸せでした」という趣旨の投稿が目に入り、心から嬉しさがこみ上げてきました。今後も一層多くの皆さんが「若穂に生まれ育って、若穂に移り住んで、本当に良かった。」「若穂に行ってみたい、若穂に住んでみたい。」と思える「まちづくり」のために、「オール若穂」の体制で努力を重ねていかなければと思ひます。今年が皆様にとって良い年でありますよう心より祈念申し上げます。



3年連続で交通死亡事故が発生 皆さん、細心のご注意を!

【安協若穂支部】

12月8日午前6:25頃、国道403号線の田中地籍若穂支所付近で横断歩道を渡っていた高齢者の方が軽トラックにはねられて亡くなりました。

若穂地区では3年連続の死亡事故。通過車両が多く危険度が高い若穂です。12月16日には長野中央署による「ナイトスクール」を開催し、交通安全への決意を新たにしました。



《続》 平成27年度人権同和教育標語作品 今回は川田小・綿内小のみなさんです

《川田小学校》

- ◆ 「けんかをしてもすぐなかなおり」 (1年・小林司さん)
- ◆ 「友だちと いっしょに あそんだら いい気持ち」 (2年・中沢真大さん)
- ◆ 「けしゴムを かしてあげるよ はいどうぞ」 (3年・近藤木ノ葉さん)
- ◆ 「ありがとう その一言で あたたまる」 (4年・小山彩加さん)
- ◆ 「いじめなく 全校のみんな 笑ってる」 (5年・村上晴哉さん)
- ◆ 「きずつくよ 相手と自分と お母さん」 (6年・北島あかねさん)

《綿内小学校》

- ◆ 「うれしいな ごめんねあそぼう ありがとう」 (1年・戸田ももかさん)
- ◆ 「友だちは たからもの 「ありがとう」「ごめんね」 みんな楽しくあそぼうよ」 (2年・駒村杏樹さん)
- ◆ 「ありがとう 心をこめて プレゼント」 (3年・北村隆悟さん)
- ◆ 「ゆうきだし ちょう戦しよう がんばって」 (4年・宮澤菜月さん)
- ◆ 「さそおうよ さべつしないで なかよくね」 (5年・宮入優妃さん)
- ◆ 「やめようね かげ口 悪口 仲間はずれ」 (6年・戸井田香穂さん)



トピックス ###



【11月20日】

◆わかほ塾と保科温泉線バス対策PJが今年も路線バスツアーを企画。24名の皆さんがバスで紅葉の保科郷を訪れました。



【12月 8日】

◆自治協の地域間交流として、若穂は第四地区(県町、新田町など市の中心部)と地域間交流事業協定を締結しました。



【12月10日】

◆綿内開発委員会(宮沢登会長)や代表区長らが綿内の憩いの場である天王山を伐採整備。桜を増殖する計画です。

4月から「保科温泉線」はルート変更で2社の共同運行へ！ 地元の熱意が路線バスを存続



すでに資料を全戸配布していますが、「保科温泉線」の4月からの運行形態が決まりました。「大豆島線」(長野バスターミナル～大豆島東団地)と統合し、平日14便、土休日10便が保科温泉まで長電バスとアルピコ交通で共同運行。時刻表や料金については今後協議されます。ベストではありませんがバスの運行を継続することができました。

- ◆若穂地区のビッグ課題を促進するため、「千曲川堤防改修促進期成同盟会」(事務局:若穂支所)と「若穂スマートインターチェンジ建設期成同盟会」(事務局:自治協)を設置することが12月16日の理事会で決定されました。
- ◆高齢化時代を迎えて地域福祉のニーズが高まっています。28年度から、福祉保健委員は「50世帯以上の自治区は2名」としてこのニーズに対応することになりました。
- ◆成人祝賀式は1月10日(日)、若穂支所2F会議室で開催されます。新成人のご出席をお待ちしています。
- ◆27年度の若穂地区「赤い羽根共同募金」は戸別・法人あわせて2,617,087円。ご協力ありがとうございました。